

洗足学園音楽大学 第4 1回打楽器アンサンブル定期演奏会

2020年11月1日(日) 16:00 開演 (15:15 開場)

洗足学園 前田ホール

Program

【グリーティングコンサート】

ガムランアンサンブル

Carabalen(チャロバレン) Kebigiro(クボギロ) Udan mas(ウダンマス)

【第1部】

Close to you / Carpenters (編曲:相澤 彩絵)

Lunapark / 加賀美 諄

Wildbeast / Dustin Schletzer

Re: / 加賀美 諄

宴 / 林 英哲

前奏曲 嬰ハ長調<<鐘>> / S.ラフマニノフ (編曲:東 廉悟)

Mass / John Mackey

~~休憩~~

【第2部】

亡き王女のためのパヴァーヌ/M.ラヴェル(編曲:山澤 洋之)

交響曲舞曲 作品 45 シンフォニックダンスより第3楽章

/S.ラフマニノフ(編曲:山澤 洋之)

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

Program Notes

【ガムランアンサンブル】	サラスワティ
チョロバレン	池本羽奈 演出美咲 松井菜々子 村山みなみ 森奈那子 吉野萌
クボギロ	大石水紀 田代万莉子 栃下紗奈 福本奏音 前田伶弥
ウダンマス	

ガムランは、東南アジアのインドネシアで行われている民族音楽の総称である。様々な銅鑼や鍵盤打楽器による合奏であり、バリ・ジャワ（中部ジャワ）など地域ごとに色々な演奏スタイルがある。本日演奏するジャワのガムランは、中部ジャワの王宮を中心に発達したもので、ゆったりとした流れと優雅な響きが特徴だ。現代では王宮の儀式の他、結婚式などの、儀礼の場、舞踊や影絵芝居の伴奏として演奏されている。
（演出 美咲）

【スティールパンアンサンブル】	Pan Note Paradise
Close to you / Carpenters	東廉悟 大西悠斗 金蘭花 佐々木裕依 高山かほ 藤江心 山本佳伶
（編曲：相澤 彩絵）	脇坂詩織 村山みなみ 天谷芽生 江原和紀 大石水紀 北山絢萌
	田代万莉子 福本奏音

カーペンターズはアメリカの兄妹ポップ・デュオ。歌手であると同時にドラマーでもあった妹・カレンの、当時の音楽のシーンとしては珍しいアルトボイスが心地よく響くヒット曲を多く放った。今回アレンジを手掛けた Close to You はカーペンターズ初の全米一位獲得曲である。アレンジの構成は大きく分けて2部構成である。

前半は原曲のふくよかな歌声のイメージを南国の温かい音色で再現した。後半はサンバに変化していき、スティールパンならではのリズムカルなソロパートからブルースやファンクの要素を取り入れたエンディングへと高揚していく。

私のアレンジを通して音色の美しさだけでない、思わず踊り出したくなるような高揚感あふれるグルーヴを生み出すスティールパンバンドの“旨味”を観客の皆様にも、そして今日演奏する Pan Note Paradise のメンバーにも楽しんで頂けたら幸いである。
（相澤 彩絵・卒業生）

【マーチング】	BLAZE
Lunapark / 加賀美 諄	角田和渉 大島李央 岫明花音 鈴木脩平 藤江心 松田紗枝
Wildbeast / Dustin Schletzer	森奈那子 入江美咲 榎本耀 金正紗也加
Re： / 加賀美 諄	

今回の曲はBLAZE～2 0 2 0～というコンセプトでメドレー式にお届けする。1曲目は、本学の卒業生 加賀美諄作曲の「Lunapark」である。

もともとこの曲は作曲者が在学中3年次に学年演奏会の為に作った曲で、最初はタイトルだけ決まっておリ、後から曲名に合わせて作られた。Lunapark とは、トルコ語で遊園地という意味があり、3分の中でリズムが変わると共に雰囲気もガラッと変わり、遊園地の一つのアトラクションに乗っているような感覚が楽しめる。

2曲目は、Dustin Schletzer 作曲の「Wildbeast」。原曲テンポが172 とかなり速いが、テンポを少し落として振り付けを入れた。カラーガードにも注目して頂きたい。

3曲目は、加賀美諄作曲の「Re：」。今回の公演の為に委嘱。今回の公演では新しいスタートという意味を込めて、テーマを「再起」にした。冒頭からトップスピードで駆け抜けるBLAZEには無い雰囲気の曲をお届けしたい。
（加賀美 諄・卒業生）

【和太鼓】	鼓弾
宴 / 林 英哲	小松幹 半田柊成 池本羽奈 近藤花音 佐竹絵磨 高橋芽生
	小野寺俊介 岡澤七海 佐藤綾香 中田実紅 横木秀真

この曲は林英哲氏が太鼓の独奏者として歩き始めて四年目に作った曲だ。個々の技量もアンサンブル力も問われる

作品である。林英哲氏は「当時、口径が1m 以上ある大きな太鼓を独奏するという形式は日本にも恐らく世界にも例がなく、日本の太鼓の独奏者という職業も前例がなかった。伝統芸能と思われがちな太鼓だが、ソリストとして歩み始めた私は、楽曲創りも打つ様式（型）やテクニックの工夫も、ソロにふさわしい太鼓や台の改良もすべて自分でやらなければならなかった。そうやって手探りしながら徐々に形にして創ったのがこの「宴」である」と述べている。
（高橋 芽生）

【チャイムデュオ】	
前奏曲 嬰ハ長調<<鐘>> / S.ラフマニノフ（編曲:東 廉悟）	大石水紀 田代万莉子

ラフマニノフのピアノ曲の中でも最も有名な作品の一つ。<鐘>を2台のチャイムのためにアレンジした。
（東 廉悟）

【打楽器アンサンブル】	
Mass / John Mackey	青柳はる夏 東廉悟 大西悠斗 金蘭花 小松幹 佐々木裕依

ジョン・マッキー(1973)はアメリカの作曲家。日本では吹奏楽の作品が有名で、「レッドライン・タンゴ」「ワイン・ダーク・シー」等はプロ吹奏楽団演奏会や吹奏楽コンクール等でもしばしば演奏される。「Mass」は彼にとって初めてのミニマルミュージック作品であり、ジュリアード音楽院のダンスコースの委嘱により作曲された。静謐な前奏から徐々に熱を帯びていき、最終的に爆発的なエネルギーを発散し曲は終わる。
（東 廉悟）

【マリンバオーケストラ】	指揮 山澤洋之（講師）
--------------	-------------

亡き王女のためのパヴァーヌ / M.ラヴェル（編曲:山澤 洋之）

「亡き王女」のモデルとなったのは十七世紀スペイン王女であったマルガリータである。スペイン人の母をもつラヴェルはスペインの要素を盛り込んだ作品を数多く残してきた。貧しい幼少期時代も、明るくスペイン民話を口ずさむ母が彼の心の支えになっていた。二十四歳で書き上げたこの曲は、その幼少期を思い起こすような懐かしさを感じさせる。ラヴェル自身はこの曲を「貧弱な形式だ」などと批判的な言葉を残しているが、記憶障害を患った彼は「この素晴らしい曲は誰のだ?」と言ったという逸話もある。あたたかい木の音色に包まれながら、古き良き時代に想いを馳せて…。
（金 蘭花）

交響曲舞曲 作品 45 シンフォニックダンスより第3楽章 / S.ラフマニノフ（編曲:山澤 洋之）

交響的舞曲はラフマニノフによって1940年に作曲された。1917年の十月革命を機に家族とともにロシアを立ち、出国後は演奏家としての活動が中心になる。交響的舞曲は出国後に書かれた数少ない作品のうちの1つであり、また人生最後の作品である。交響曲のように一貫した3曲の舞曲集である。

ラフマニノフはこの曲を通して人生を回想したとされ、場面ごとの状況や感情をリズムで表現したと言われている。また、題名にあるとおり当初はバレエの振付が予定されていたが、振付師が完成前に死去したため実現はされなかった。

第3曲は真夜中を意味する12回の鐘の音をきっかけに、死を意味するグレゴリオ聖歌の「怒りの日」と、主の復活を讃えた自作の聖歌『徹夜禱』のフレーズを交互に稠密に展開させ、最後は"Alliluya"(ハレルヤ)の言葉とともに『徹夜禱』が盛大に鳴り響くものの、どちらに転ぶかわからない人生の結末を暗示するかのように、華やかだがどこか暗い重音と鐘を模した銅鑼の響きで幕を閉じる。激動の時代の中、祖国、音楽を愛し続けたラフマニノフ。また同年代に活躍したロシアの作曲家が前衛的な音楽を作る中、自分の音楽を求め、現代でも愛され続ける作品を数多く生み出した。
（青柳 はる夏）

MEMBERS

大学院 2 年	角田 和渉				
4 年生	青柳 はる夏 佐々木 裕依 松田 紗枝	大西 悠斗 鈴木 脩平 山本 佳伶	金 蘭花 高山 かほ 脇坂 詩織	岫 明花音 半田 柊成 東 廉悟	小松 幹 藤江 心 大島 李央
3 年生	池本 羽奈 高橋 芽生 森 奈那子	小栗栖 未久 濱出 美咲 吉野 萌	北野 佑芽 福光 真由	近藤 花音 松井 菜々子	佐竹 絵磨 村山 みなみ
2 年生	天谷 芽生 岡澤 七海 田代 万莉子 前田 歩都	入江 美咲 小野寺 俊介 栃下 紗奈 前田 伶弥	榎本 耀 北山 絢萌 中田 実紅 八木 優弥	江原 和紀 金正 紗也加 林 拓海 横木 秀真	大石 水紀 佐藤 綾香 福本 奏音

演奏会責任者	金 蘭花
インスペクター	高橋 芽生
ステージ責任者	北野 佑芽
広報	松井 菜々子

照明 岡田 勇輔(音楽環境創造コース 講師)

ガムラン指導 森重 行敏(現代邦楽研究所所長、客員教授)

音楽監督 石井 喜久子(打楽器コース統括教授)

PROFILE

林 英哲(作曲・和太鼓指導)

「佐渡國鬼太鼓座」「鼓童」の創設に関わり主なレパートリーの作編曲、トップ・プレイヤーとして世界ツアーに参加。'2年ソロ活動を開始。'84年カーネギーホールデビュー。日本の伝統にはなかった大太鼓のソロ奏法の創造などで、現代音楽の分野でも前例のない和太鼓ソリストとして国際的に高い評価を得る。以後、ベルリンフィル他、国内外のオーケストラと共演。'97年芸術選奨文部大臣賞、'01年日本伝統文化振興賞、'17年松尾芸能賞大賞を受賞。'19年まで東京藝術大学の客員教授を務める。'20年NHK大河ドラマ「麒麟がくる」テーマ曲にソリストで参加。'21年は演奏活動50周年を迎える。

山澤洋之(指揮・編曲・指導)

洗足学園音楽大学・大学院を首席で卒業・修了。

第12回日本クラシック音楽コンクールグランプリ受賞。主宰する打楽器集団「男群」にて第8回大阪国際室内楽コンクール&フェスタにおいて世界第3位に該当する銅賞を受賞し日本人団体初の入賞となった。打楽器アンサンブルを中心に多数の作曲作品が発表されている。主な出版作品に「花回廊/風龍」などがある。リズムへの的確なアプローチと深い音楽表現から近年指揮者としても活躍し、北総シンフォニックウインド芸術監督を務めるほか弦楽合奏、オーケストラなど様々な団体で客演を務める。ライフワークとする吹奏楽指導も積極的に行い、盛岡吹奏楽団専属コーチなどを務める。

洗足学園音楽大学・大学院講師。広島文化学園大学学芸学部音楽学科准教授。
日本最大のマリンバメーカー「(株)こおろぎ社 neoria」契約アーティスト。

アンケートにご協力をお願いいたします。

アンケート回答ページ <https://301.run/r/kaql4jT>

または、右のQRコードからもアンケート回答ページへお入りいただけます。

